

## インドネシアにおける給食活動の取り組み

草薙佳奈子 東京大学大学院教育学研究科附属 学校教育高度化・効果検証センター 助教



日本では当たり前にある学校給食ですが、給食が提供される社会文化的背景は様々です。発展途上国や先進国の貧困地域では家庭で十分な栄養が取れない子どもたちへの配慮から給食が提供されています。インドネシアの学校では2016年に授業時間が半日から全日に延長されることになり、子どもたちが学校で昼食を取るようになりました。しかし、お弁当の学校が主流で、給食はまだ一般的ではありません(1)。裕福な家庭の子どもたちの通う私立校を中心に給食が提供されているという特徴があります。ニュースレターNo.2で書いたとおり、多様な民族や宗教の人が暮らすインドネシアで、日本のように同じメニューを提供することが難しいという事情もあります。

東京大学教育学研究科附属の学校教育高度化・効果検証センターは、タタン・スラトノ氏ら（インドネシア教育大学セラン校）を通じて、2年前からインドネシアで特別活動の実践を現地化する支援をしています。バンドン市にあるサント・ユスフ学園は、設立110年の歴史あるカソリックの学園です。分かち合うことや施しの行為が宗教的に大切にされており、保護者が持ち回りでクラス全員分の昼食を提供していました。ここに日本の給食当番などが取り入れられ、人格教育を目的とした教育活動として実践されています。インドネシアでは新カリキュラムで、子どもの社会的・情緒的成長を目的とした人格教育に力が入られるようになり、特別活動が全人的な教育モデルとして取り入れられるようになった背景があります。

裕福な家庭では身の回りの世話をしてくれるお手伝いさんがいることもあり、自分で身支度をすることや部屋の片付けをすることに慣れていない子どもたちもいます。そこで、給食活動を通じ、手洗いの仕方、机を拭く、使ったトレイやお皿を洗うなど、自立した行動を支援すること、給食当番で友達と協力したり友達のために働く経験を積む事や、感謝の気持ちを伝えることなどを目的として活動が行われています。

見学させてもらった幼稚園のクラスでは、自閉症の男の子に辛抱強くトレイの持ち方や、お皿の並べ方を教える先生の姿がありました。知識中心の教育活動が多いインドネシアでは、障害を持つ子はクラスの子と関わり方が難しいのですが、辛抱強く毎日の習慣として取り組むことで、できることが増えてきたと先生は言っていました。

今後インドネシアでは市民教育と関連付けて特別活動の取り組みが広まっていくと予想されます。



日本の給食当番をモデルに幼稚園生が配膳を行っている様子（写真の掲載は、保護者・学校の下承を得ています）

【注釈】(1)例えば、スラカルタ市では2018年に18%の学校で給食が提供されていたというデータがある。その多くは任意で全日制の私立学校であったと推定される。

(Saputri R D, Putri R A and Rini E F 2018 Factors influencing the selection of primary schools in developing Surakarta as a child-friendly city Region: Jurnal Pembangunan Wilayah dan Perencanaan Partisipatif, 13, 152-68)



辛抱強く生徒に指導する先生



お祈りの言葉を口にしてから食事をする



食事後に使ったトレイを洗う子どもたち

### 国際理解まめ知識：インドネシアの断食

人口の約9割がイスラム教徒であるインドネシアでは、今年は4月24日より5月23日までがヒジュラ暦の聖なる月（第9月）にあたり、現在断食の真っ最中です。断食には欲望に打ち勝つこと、貧しい人々を思いやる気持ちや神への感謝、世界のイスラム教徒間の連帯を強めるといった目的があります。断食月は、日の出から日没まで飲食ができないため、日の出前に起きてサフルと呼ばれる食事をし、仮眠をとった後に学校や職場に向かいます。日没後には、イフタールと呼ばれる断食明けの食事を家族や友人と食べます。断食月が終わると、「レバラン」と呼ばれる断食明け大祭があり、日本のお盆のように帰省して親族で祝います。しかし今年は新型コロナウイルス感染防止のため、政府により集まりや帰省が禁止されたため、親族や友人と集まらずに断食月と、レバランが過ごされることとなります。

インドネシアの特別活動の取り組みについては以下もご参照ください。

1. 草薙佳奈子（2019）「インドネシアの人格教育と日本の特別活動への関心：バンドン市における小学校の実践を事例に」Center for Excellence in School Education Graduate School of Education, The University of Tokyo Working Paper Series in the 21st Century International Educational Models Project, No. 7.
2. 草薙佳奈子、タタン・スラトノ（2020）子どもの学びを中心とした授業研究と学びの共同体づくり—インドネシアY学園における特別活動を通じた教師の同僚性構築の試み—東京未来大学研究紀要, Vol.14, pp.63-68.

発行/国際教師力研究会

<https://globaledumulti.jimdofree.com/>  
E-mail: [globaledumulti@gmail.com](mailto:globaledumulti@gmail.com)